443 ^{99m}Tc pertechnetate 唾液腺シンチグラフィのベル麻痺予後診断法としての検討

利波紀久，久田欣一（金沢大　核）山田善夫，
宮崎為夫，梅田良三（金沢大　耳）

^{99m}Tc pertechnetate 唾液腺シンチグラフィを正常15名とベル麻痺40例に施行し，時間放射能曲線を基礎的に検討し，ベル麻痺の予後診断法として有用であるかどうか検討した。^{99m}Tc 10 mCi を静注し，1分毎に25分後までデータ収集した。又，静注15分後にシナール1錠を服用させ排泄機能を観察した。

^{99m}Tc 静注10分後の耳下腺および顎下腺の左右の集積比とシナール投与後の排泄の左右比を機能指標として選んだ。発症10日以内の症例では，患側顎下腺機能が正常かまたは正常に近い場合には予後は良好であり保存的療法で完全回復が期待できたが，顎下腺機能の低下例では不完全回復に終つた。

患側顎下腺機能低下がみられた症例の中に，かなりの頻度で患側耳下腺機能にも低下がみられるという新知見を得た。ベル麻痺発症10日以内の時点では，従来の種々の予後診断法よりも本法の方がはるかに優れていることが判明した。

444 唾液腺疾患の画像診断における唾液腺シンチグラフィの意義

竹内実穂、中島哲夫、角　文明、三塩宏二、上原晃、渡辺義也、砂倉瑞良（埼玉がんセンター　放）

各種唾液腺疾患に、唾液腺シンチグラフィを施行し、CT、US、Sialography などの画像診断法とともに臨床検査法としてはたす役割について検討した。

対象は、Warthin 腫瘍　5例、多形腺腫　4例、その他の良性腫瘍　2例、悪性腫瘍　4例、炎症　7例、シェグレン症候群　4例、その他　3例である。

Tc－99m Pertechnetate 静注後より、30分間、10秒間隔で画像を収集し、30分後にレモン刺激によるwashout を10分間収集し、time-activity curve を得た。シンチグラムは、5分毎に撮像し、最後に左右側面像も得た。

CT，USとも腫瘍の局在診断は可能であったが、鑑別診断は悪性腫瘍の進行例を除いて困難であった。一方、唾液腺シンチグラフィは、唾液腺機能の評価が可能であるばかりでなく、Warthin 腫瘍の5例全例に腫瘍に一致した集積増加と分泌遅延が認められ、特異的な所見と考えられた。また、3例が両側多発性に認められ、1cm 大の腫瘍も描出可能であった。他の腫瘍で陽性像を示したものはなかった。以上、唾液腺シンチグラフィの臨床的意義は大きいと考えられた。

445 Sjögren 症候群のRI診断

長瀬勝也，近藤淑子，芳士戸治義，
飯田　進，岡本一夫（順大　中放）
橋本博史，広瀬俊一（順大　膠内）

Sjögren 症候群は1933年Henrick Sjögren に初めて報告され涙腺唾液腺の分泌減少と他の外分泌腺機能異常との関係に注目されている。
本症が慢性関節リウマチ，全身性エリテマトーデス結節性多発動脈炎，強皮症，多発性筋炎などいわゆる他の膠原病疾患を合併する例が多く見出されている。
そしてSjögren 症候群の症例は圧倒的に中年以降の女性に多く，合併症を有する場合先に膠原病が現われて来る場合もあれば眼球や口腔の乾燥症状が先に現れて来る場合もある。
この様な多彩な症状をもって発症するSjögren 症候群を簡単に診断出来る検査法があまり見当らない。
今回Sjögren 症候群の症例にパーテクネテイトを使用しそのデータを経時的に収録し検討を行った。
方法は唾液腺特に耳下腺及び顎下腺に関心領域を設定し，RI集積曲線及び排泄曲線より本症の診断が可能であるか検討した。
その結果定型的なSjögren 症候群の症例では唾液腺へのRI集積は低下し排泄も遅延するが軽度の症例については症例をかさね現在検討中である。

446 放射線治療の唾液腺に及ぼす影響のTc-99m pertechnetate による検討

水流浩志，森田誠一郎，仏坂芳孝，菊池　茂，
梅崎典良，大竹　久，（久留米大　放）

頭頸部悪性腫瘍の放射線治療に際し，唾液腺障害による口渇などを訴える患者が多い。今回われわれは，頭頸部悪性腫瘍に対し放射線治療を行なった患者について，放射線による唾液腺機能障害を評価する目的でTc—99m pertechnetate による唾液腺シンチグラフィを施行した。

対象は頭頸部悪性腫瘍患者25例で，治療前後に検査を行なった。放射線治療は，Co—60 遠隔装置により総線量20～60 Gy が照射された。

検査は，Tc—99m pertechnetate 5 mCi 静注直後よりTOSHIBA GCA 10A シンチカメラで撮像を開始し，同時に得られたデータを1分毎に60分間TOSHIBA GMS—80Aに収集した。検査開始45分後にレモン汁を投与し，唾液分泌を促した。耳下腺，顎下腺に関心領域ROIを設定し，Time—Activity Curve を作製し，各種パラメータを算出した。その結果，照射前では耳下腺の方が顎下腺に比して摂取速度は遅く，分泌能は大で，照射により分泌能が早期より障害されていた。また，放射線感受性は耳下腺の方が高いと考えられた。

Presented by Medical*Online